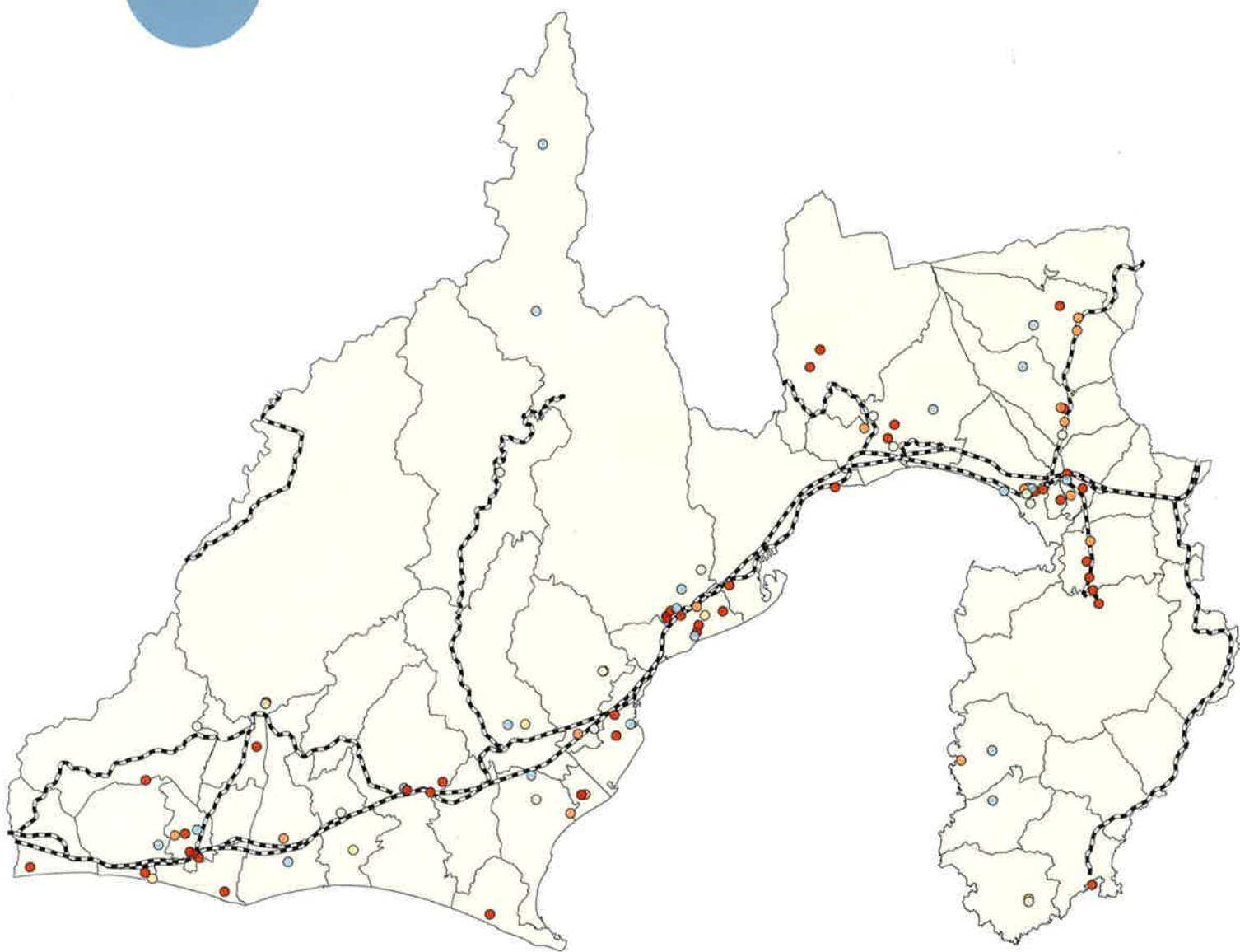


# 百の建築

静岡県公共建築百選

vol.3 2008-2012



2013.03

静岡県  
公共建築  
推進協議会

shizuoka  
public buildings association

# 磐田市急患センター

建物用途 福祉施設  
 所在地 磐田市上大之郷51番地  
 建築面積 969 m<sup>2</sup>  
 延べ床面積 1,270 m<sup>2</sup>  
 構造/階数 RC/2F

UD	まちづくり	木材活用	ストック活用	歴史的建築物	環境配慮	省エネルギー	先進技術	防災拠点	その他
✓					✓	✓			

## 施設の特徴

旧市民プール跡地に建設された急患センターは、住民が健康を託し、地域に親しまれ、安心の拠点となる施設づくりをテーマに、既存の樹木を残しつつ、緑に囲まれた敷地内に建設した。

メイン道路となる西側道路から認識しやすい位置に建物を配置し、救急医療施設として休日・夜間における疾病者の応急措置を行っている。また、訪問看護ステーションなど多機能を併設した複合施設として整備され、安心の拠点としての役割を担っている。



外 観



診療所 待合ホール



訪問看護ステーション



内観

診療所 処置室



地域包括支援センター



子育て支援センター



医師会事務所



# 磐田市急患センター

磐田市

図版編  
p.80

用途	所在地	連絡先	TEL/FAX/Eメールアドレス		
複合	磐田市上大之郷51番地	健康福祉部 健康増進課	0538-37-2011/0538-35-4586 kenko@city.iwata.lg.jp		
敷地面積	建築面積	延べ床面積	構造	階数	最高高さ
6,604 m <sup>2</sup>	969 m <sup>2</sup>	1,270 m <sup>2</sup>	RC	2F	9.4 m

整備概要	概要			主要諸室	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋根:R屋根 フッ素ガルバリウム鋼板一文字葺き</li> <li>・外壁:磁器質ポータータイル貼り</li> <li>・駐車場:104台、駐輪場</li> <li>・ヘリコプター離着陸場、防火水槽(40t)、地下式調整池</li> <li>・受電:高压三相三線式</li> <li>・給水:市水</li> <li>・下水:公共下水道</li> <li>・ガス:都市ガス</li> </ul>			<input type="checkbox"/> 診療所 1F ・待合ホール, 診察室(4室), 処置室, 医事, 薬局, レントゲン室 <input type="checkbox"/> 訪問看護ステーション 1F <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター 1F <input type="checkbox"/> 子育て支援センター 1F ・プレイルーム, 事務室, 相談室 <input type="checkbox"/> 事務所 2F ・医師会, 薬剤師会, 歯科医師会事務所, 会議室	

設計概要	区分	委託料(千円)	工期	発注方式(選定方式)	設計事務所
	基本設計 実施設計	10,780	自 H23.05.18 至 H23.11.11 6ヶ月	制限付一般競争入札	(株)内藤建築事務所 静岡営業所
	工事監理	8,925	自 H24.03.28 至 H25.01.07 10ヶ月	特命随意契約	(株)内藤建築事務所 静岡営業所

工事概要	区分	工事費(千円)	工期	発注方式(選定方式)	工事業業者
	建築	323,400	自 H24.03.26 至 H24.12.14 9ヶ月	制限付一般競争入札	(株)イトー
	電気設備	61,007	自 H24.03.26 至 H24.12.14 9ヶ月	制限付一般競争入札	(株)フジデン
	給排水 衛生設備	19,862	自 H24.03.26 至 H24.12.14 9ヶ月	制限付一般競争入札	(株)ダイバ
	空気調和 設備	50,724	自 H24.03.26 至 H24.12.14 9ヶ月	制限付一般競争入札	日管(株)磐田営業所
計	454,993	自 H24.03.26 至 H24.12.14 9ヶ月			

**備考**  
 本施設は、市内の医療格差を縮め、南部地域住民の安心・安全を考慮した用地選定を行い、医療機関の診療時間外における休日・夜間の医療施設を整備し、手術・入院等を要さない疾病者の応急処置を行う一次救急医療施設である。施設の特徴は、「救急在宅医(休日当直医)を集約して常駐化し、市民に分かりやすくする。」、「訪問看護ステーション等多機能を併設した複合施設とする。」、「夜間急患センターを所在地から移転し、レントゲン等の機器を導入して検査内容を充実する。」ことにより、救急在宅医がセンター方式となるため、診療科目や場所を確認する必要がなくなり市民の利便性が向上する。また、高齢化が進み在宅医療が求められる社会にも適応できる可能性をもった複合施設である。